

年 組 名前

次の（ ）に入る言葉をスライドプリントから探して記入しましょう（30点満点）

<骨の連結と関節運動>

1. 骨格を作る骨の連結の種類には、動く関節である（ ア ）と動かない関節である（ イ ）や縫合がある。
2. （ ウ ）とは、動作によって曲がることのできる骨と骨とのつなぎ目のことであり、（ エ ）をうごかすことで、日常生活上で必要な動作ができる。
3. 関節を構成する骨は、一般に凸の形をしている部分を（ オ ）といい、凹の形をしている部分を（ カ ）という。
4. 関節を包む袋状の組織である関節包の内面は滑膜に覆われ、少量の（ キ ）を入れている。この（ ク ）は、関節の潤滑油として働き、関節軟骨に栄養を供給する役目も担う。
5. 靱帯は、強靱な帯状の（ ケ ）であり、関節を作る骨の相互関係を保ち、関節の過度の伸展を防ぐものであり、関節包の周囲は、靱帯で補強されている。
6. 関節を分類した場合、構成する骨の数が2個のものを（ コ ）関節、構成する骨の数が3個以上のものを（ サ ）関節という。また、関節の運動軸の数によって関節を分類した場合には、一軸性関節、（ シ ）関節、（ ス ）関節という3種類に分類され、このうち、どの方向にも曲がり、かつ回る関節は（ セ ）関節である。
7. 関節は、関節面の形によって、球関節、顆状（橈円）関節、蝶番関節、車軸関節、鞍関節、平面関節などに分類できるが、この分類で（ ソ ）関節にあたるのは肩関節や股関節であり、（ タ ）関節にあたるのは、肘関節や指節間関節である。さらに、（ チ ）関節にあたるのは、椎間関節や肩鎖関節である。また、首にある正中環軸関節にあたるのは（ ツ ）関節であり、車のシフトレバーのような動きができる。
8. 関節運動の種類には、屈曲と（ テ ）、（ ト ）と内転、回内と回外、内旋と（ ナ ）、描円などがある。このうち、前腕の運動で手掌を上向きから下向きにする運動を（ ニ ）といい、手掌を下向きから上向きにする運動を（ ヌ ）という。また、下肢において、足首を、内側に向けること（ウチマタ）を（ ネ ）という。
9. 関節に一番負担が少なく、もしも関節がそのまま固まってしまったとしても、日常生活に最も影響を与えにくいと考えられる肢位を（ ノ ）という。
10. 骨格筋は横紋筋からなり、肉質で赤色を呈し、（ ハ ）する部分を持っている。
11. 骨格筋の両端は、白色の（ ヒ ）によって骨に付着している。

1 2. 骨格筋の両端のうち体幹に近いほう、あるいは収縮するときに動きの少ないほうを起始といい、体幹から遠いほう、あるいは収縮するときに動きの多いほうを停止というが、この起始に近い筋肉の部位を（ フ ）、停止に近い部位を（ ヘ ）、両者の中間の部分を筋腹という。

1 3. 骨格筋の形状を見ると、腱がよく動く部分には、（ ホ ）があり、関節運動を円滑にしている。